

下関市は コンベンション誘致にも 力を入れています

下関市では、2022年の観光客数1,000万人、宿泊客数100万人を目指して「観光交流都市下関市」を宣言するとともに、「下関市観光交流ビジョン2022」を昨年12月に策定しました。その中の戦略的柱の一つである「コンベンション誘致充実都市」について紹介します。詳細◇観光政策課(☎231-1350)

コンベンションって何??

大規模な大会・学会や国際会議のこと。一定の期間に多くの人を訪れ、宿泊を伴うものも多い。最近ではコンベンションに代わる言葉としてMICE (マイス)という造語も使われる。次の四つの頭文字をとった造語で、多くの集客交流が見こまれるビジネスイベントなどの総称

- (M) Meeting = 企業などの会議、研修、セミナー
- (I) Incentive = 企業などの行う報奨、研修旅行
- (C) Convention / Conference = 大会、学会、国際会議
- (E) Exhibition / Event = 文化・スポーツイベント、見本市



Q: どんな取り組みをしているの?

大規模な大会・学会や国際会議などのコンベンションを誘致できる実力、実績を備えた観光都市づくりを進めていきます。その第一弾として「下関市コンベンションシティ創造会議」を昨年11月に立ち上げました。これは、下関観光コンベンション協会・下関商工会議所・下関旅館ホテル協同組合・下関観光土産品協会・山口県下関県民局や下関市など19団体で構成する官民一体となったものです。市長と下関観光コンベンション協会の富永会長の官民2トップ体制で、学会やスポーツ、文化関連事業など、あらゆるコンベンション誘致活動や受入態勢の強化充実を図り、トップセールの機会を拡大、スポーツ・文化面での合宿誘致などの新たな取り組みも検討・強化することを目的としています。

誘致・受け入れが一体となった新組織 **これが必要!**



Q. コンベンションを開催するとどうなるの？

コンベンションは一般の観光客と比べても大きな経済効果をもたらします。

例えば、平成22年7月14日～16日に開催された日本消化器外科学会は、6500人の参加者で下関市の中でも過去最大級の規模となり、本市への経済波及効果は4億7000万円にもなりました。

Q. コンベンション誘致のターゲットとは？

コンベンション誘致のターゲットは2種類あります。一つは医学等学会関係の大規模コンベンションで、もう一つは500人～1800人規模のコンベンションです。特に後者は市民の皆さんが所属する団体の中国大会、全国大会に期待するところが多く、皆さんが手を上げやすいような手伝いや、より質の高いコンベンションの受け入れ体制作りに積極的に取り組んでいきます。

2つのターゲット



医学等学会関係の大規模コンベンション



500人～1,800人規模のコンベンション

ターゲットごとに適宜適切な誘致策を展開

大きな経済効果と新たなコンベンションを生む！

2015年、下関で開催されます！ 第58回日本糖尿病学会年次学術集会

下関観光コンベンション協会が重点的に誘致活動を進めてきた「第58回日本糖尿病学会年次学術集会」の受け入れが決定し、平成27年5月21日～24日に下関で開催されます。

これは、参加者1万人を超える日本で最も大きな学会の一つです。谷澤幸生教授（山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学・山口大学医学部附属病院第3内科）がこの会の会長に選任され、下関市を中心に関門地区での開催決定に向けてご尽力いただきました。

谷澤教授が語る

「下関で開催可能」と確信したワケ

これだけの大きな学会を開催できるのは、ほぼ大都市に限られます。これに近い規模の学会の開催地には、これまで福岡を選んでいました。しかし、下関市は市民会館や海峡メッセ下関、

生涯学習プラザなどの施設が充実し、駅周辺や唐戸周辺にホテルもあることから、会場は確保できそうです。

心配なのは宿泊でしたが、下関市に北九州市を加えると、かなりの部屋が確保可能であることが分かりました。

福岡～小倉間は新幹線で1駅、そこから下関へは10分余り、周辺には宇部空港、北九州空港、福岡空港と三つの空港があり、全国からの航空機ネットワークも充実しています。門司へも定期船で5分。何よりも関門海峡はとても魅力的な場所です。全国の皆さんに下関を知ってほしい、地元の皆さんに糖尿病のことをもっと知ってほしいという気持ちも大きかったです。

昨年の夏、家族と当地に宿泊し、関門海峡を船で渡り、下関から小倉へ、小倉から門司港へと自分で足を運び、会場を見て回って「開催可能を確信しました。」

学術的に充実した学会にしたいのと同時に、参加者には美しい関門海峡の風景や、魚介類を中心としたおいしい食事でリフレッシュしてほしいと思っています。

再来年の下関開催に、多くの学会員の期待を感じています。



教授 谷澤幸生氏
(山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学
山口大学医学部附属病院第3内科)



会長 冨永洋一氏
(一般社団法人下関観光コンベンション協会)

その街の"人"の魅力で"人"が集まる。

「また会いに来るね」と言われるようなおもてなしを！

「観光交流都市 下関」の実現には、市民全体でのサポートが必要です。コンベンションは宿泊を伴うものが多く、地域に多くの波及効果を与えます。

大規模学会などが成功裏に終了することが、次のコンベンションを誘致する際の重要な要素にもなってきます。参加者はアフターコンベンションとして、市内の観光スポットにも出掛けられますので、参加されたお客様一人ひとりに本市

のファンとなっていただくことで観光のリピーターにもつながります。

そのためには、あいさつをはじめ、市民全体で本市を訪れるお客様の質問に適切に対応していただくなど、おもてなしの心あふれる下関の実現が重要です。「その人に会いたいからまた来ました」という人が増えるよう、一緒におもてなしの心をより高めていきましょう。

市民の皆様のご協力をお願いします。